

環境経済学から 産廃処理を議論

慶大・細田教授が上智
エコロジーセミナーで

上智大学法科大学院は16日、新宿区の同学キャンパスで今年度の「ソフィアエコロジーセミナー（Cセミナー）」を開催した。慶応義塾大学経済学部の細田衛士教授が「環境経済学からみる産業廃棄物処理の現在・過去・未来」をテーマに講演し、学生、研究者、企業担当者などと活発な議論を行った（写真）。

このセミナーは、一貫したテーマについて個別



の講師による連続講義を実施することで研究成果を社会に還元し、さらに教育の質の向上につなげようという試み。同学が組織する環境政策プログラムの一部として行われるもので、AからCの3種のセミナーを合わせ年間十数回行われている。

今回登壇した細田教授は環境経済学分野における長年の研究成果を分かりやすく説明した。動脈・静脈という二つの経済の成り立ちからそのメカニズム、産業廃棄物処理を取り巻く今日の実況をEUなど海外動向と豊富な事例を交えて解説。「資源生産性を高め、静脈ビジネスを高度な資源循環の方向に誘導する必要がある。そのためには静脈資源、2次資源（再生資源）の需給動向を見極め、フローコントロールを行う必要がある」などとした。